↓ IMR, Tohoku University http://www.hydrogen.imr.tohoku.ac.jp/ リチウムーマグネシウム系錯体水素化物の水素貯蔵特性 東北大金研 O(院)ニ宮彬仁、(院)北原学、中森裕子、折茂慎一

Introduction

可逆的に高密度の水素貯蔵が可能であることから、近年、錯体水素化物による水素貯蔵が注目されている。しかし、その脱水素化温度は 実用温度に達していないのが現状である。本研究グループでは次式で表されるMg(NH₂)₂の水素化・脱水素化反応を明らかにした。

 $Mg(NH_2)_2 + 4 \text{ LiH} \Leftrightarrow 4 / 3 \text{ Li}_3N + 1 / 3 Mg_3N_2 + 4 H_2$ (9.1 mass%)

今回は、この脱水素化温度を低下させることを目的として、Li、Mgの混合窒化物にミリング処理を行い、その効果について検討した。



・ミリング処理により混合窒化物の相は変化するが、水素化後は全て Mg(NH₂)₂とLiH が生成した。

・水素化前の混合窒化物にミリング処理、触媒添加を行うことにより、脱水素化温度を最大で約170K低下させることができた。

References: (1) 北原ら 2004年日本金属学会春期大会, (2) Y.Nakamori et al. Appl. Phys. A (2004) 本研究の一部は、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「水素安全利用等基盤技術開発事業」プロジェクトのもと、豊田中央研究所との共同研究により行われた。

1.0

1.2

LiNH,

a = 0.5037 nm c = 1.0278 nm